

原 著

岡山県におけるナガレタゴガエル (カエル目, アカガエル科)の新産地

岡山市 山田 勝*
矢掛町 江木 寿男

New Habitat Records for Brown Stream Frogs (Anura, Ranidae) in Okayama Prefecture

Masaru YAMADA, Okayama-city
and
Hisao EGI, Yakage-cho

ABSTRACT

On 25 November 2007, 12 *Rana sakuraii* were captured in a mountain stream in Kagamino-cho, Tomata-gun, Okayama Prefecture, approximately 20 km west of Mt. Mikunigasen in Tottori-city, Tottori Prefecture, which was previously considered to be the westernmost limit of this species. This is the first confirmed sighting of *R. sakuraii* in Okayama Prefecture. *R. sakuraii* were also observed in Tsuyama-city of Okayama Prefecture on 8 December 2007 and in Kagamino-cho, Tomata-gun, Okayama Prefecture on 24 December 2007.

キーワード：岡山県新産，鏡野町，西限，津山市，ナガレタゴガエル。

はじめに

ナガレタゴガエル *Rana sakuraii* は、1978年の早春に東京都奥多摩の日原川で写真家の桜井淳史氏により初めて発見された日本固有種のアカガエルである。分類学的な記載が行なわれ学名がつけられたのは1990年とごく最近であり(草野, 1996), 近畿, 中部, 関東, 北陸の各地方の低い山間部の溪流に生息するとされている(内山ほか, 2002)。近年, 中国地方の鳥取県八頭郡若桜町来見野川, 鳥取県鳥取市佐治町三国山でも本種が確認されており, 後者の生息地が現在のところ分布の西限と考えられている(岡田ほか, 2001; 岡田, 2002)。今回, 鳥取県鳥取市佐治町三国山よ

りもさらに約20km西方の岡山県苫田郡鏡野町内で本種の生息が確認され, その後岡山県津山市内, 岡山県苫田郡鏡野町内の別場所でも本種の生息を確認したのであわせてここに報告することとした。なお, 筆者らの知る限り岡山県からの報告はなく, 岡山県野生生物目録(岡山県野生生物調査検討会, 2003)にもその記載はないので今回の報告が岡山県初記録と考えられる。

調査方法

2007年11月25日に岡山県苫田郡鏡野町内(1ヶ所目), 2007年12月8日に岡山県津山市内, 2007年12月24日に岡山県苫田郡鏡野町内(2ヶ所目)の山間溪流を調査し(採集圧, 環境圧を考慮し, 字地名, 河川名等の記載はしないこととする), 主に水際の石の下, ガレ場, 瀬, 淵などでカエル

* 連絡先: m-s-yamada@mx31.tiki.ne.jp

類を探索した。確認した個体についてその数を記録し、あわせて調査時の天候、気温、水温、流れ幅、平均水深、標高、周辺環境等を記録し、写真撮影も行った。

鏡野町内（1ヶ所目）での確認状況

2007年11月25日にスギ *Cryptomeria japonica* の混じる混交林内を流れる溪流（写真1）内で、流れの滞留する水際近くの石の下などで本種と思われるカエル類12個体を確認した。確認した場所は、伏流水が常に流れている径30~60cm大の石の下であった。これらのカエル類の後肢のみずかきは著しく発達し、第1趾から第3趾の外縁と第5趾の内縁で指端膨大部の基部に達していること、背側線が鼓膜の後ろで外側に曲がっていること、趾端は円盤状に膨らんでおりさらに雄の第1趾にできる婚姻瘤と呼ばれるたこが2つに分かれず、ひとつつながりになっていること、また繁殖期を迎えるオスの胴体側面や腿部の皮膚が伸張していることからナガレタゴガエルと同定した（写真4~8）。性別は雄10個体、雌2個体であった。すべての雄に明瞭な婚姻瘤がみとめられ、内、1個体を標本として10%ホルマリンで固定後、70%アルコールで保存した。採集標本は倉敷市立自然史博物館へ保管されている。調査時の天候は晴れ、気温8.0℃、水温6.5℃（11:15測定）、流れ幅約2.5~4.0m、沢の水深は深いところで約80cm、平均水深は20~30cm、発見地点の標高は約700mであった。なお、タゴガエル3個体、ヒダサンショウウオの成体1個体も同所で確認した。

津山市内での確認状況

2007年12月8日にスギが優占し一部に落葉広葉樹が散在する溪流（写真2）内の水際近くの石の下で本種と思われるカエル類5個体を確認した。確認した場所は、流れが滞留し伏流水が常に流れている径30~50cm大の石の下であった。これらのカエル類も鏡野町の個体と同様の特徴を有しており、ナガレタゴガエルと同定した。性別は雄4個体、雌1個体であった。すべての雄に明瞭な婚姻瘤がみとめられ、内、1個体を標本として70%アルコールで固定・保存した。採集標本は山田個人標本として保管している。調査時の天候は曇り、

気温7.7℃、水温7.3℃（15:00測定）、流れ幅約1.8~5.0m、沢の水深は深いところで約60cm、平均水深は15~30cm、確認地点の標高は約600mであった。なお、タゴガエル2個体、ヒダサンショウウオの成体1個体も同所で確認した。

鏡野町内（2ヶ所目）での確認状況

2007年12月24日にスギが優占し一部に落葉広葉樹が散在する溪流（写真3）内の水際近くの石の下で本種と思われるカエル類3個体を確認した。確認した場所は、流れが滞留し伏流水が常に流れている径40~60cm大の石の下であった。これらのカエル類も先の鏡野町・津山市の個体と同様の特徴を有しており、ナガレタゴガエルと同定した。性別は雄3個体であった。すべての雄に明瞭な婚姻瘤がみとめられた。調査時の天候は曇り、気温4.0℃、水温6.1℃（9:55測定）、流れ幅約1.8~3.6m、沢の水深は深いところで約110cm、平均水深は15~30cm、確認地点の標高は約630mであった。

考 察

本種は、鳥取県東部から近畿・中部・北陸・関東の各地方の山地に不連続に分布している（岡田、2002）とされるが、近県を含めての報告例は多くなく今後の調査により岡山県内の分布がさらに明らかにされることが期待される。また、今回確認した本種の生息地の環境は、比較的人の介入が少ないと思われる谷奥の山間溪流であった。当面の開発計画や大規模な林道整備、まとまった森林伐採などの動向は定かでないが、希少な生息地として今後継続的な注視が必要な場所と考えられた。

また微環境でみると、いずれの生息地も溪流の水際にある石の下ではほとんどの個体を確認された。石の下には大小の礫がありその隙間を伏流水が流れていた。逆に、砂などが多く堆積する溪流内では確認されなかった。このことから秋季から冬季における本種の生息において、石の下に伏流水が流れる場所を多く有した環境の維持が重要なポイントとなると考えられた。同時に大規模な林道開発や森林の皆伐は、伏流水の枯渇や護岸整備による生息地の直接的破壊等を招くおそれがあり、本種らの生息に少なからず悪影響を与えるも

のと推測された。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、さまざまな便宜を図っていただいた岡山県自然保護センターの森生枝氏、ならびに同定についてご教授いただき発表をすすめていただいた鳥取県若桜町在住の岡田純氏、さらに各所での現地調査でご協力をいただいた村田 幸氏・山田信光氏に感謝の意を表するとともに、記してお礼申しあげる。

引用文献

草野 保, 1996. ナガレタゴガエル. 日本動物大

百科第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類(日高敏隆監修). 34-35. +42. 平凡社, 東京.

岡田 純・亀山 剛・池田誠慈, 2001. 鳥取県で発見されたナガレタゴガエル. 両生類誌(6): 18-20.

岡田 純, 2002. 鳥取県佐治村三国山のナガレタゴガエル新産地. 鳥取生物(35): 1-2.

岡山県野生生物調査検討会, 2003. 岡山県野生生物目録. 397pp. 岡山県・岡山県環境保全事業団.

内山りゆう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎, 2002. 日本の両生爬虫類. 98-99p. 平凡社, 東京.



写真1. 苫田郡鏡野町のナガレタゴガエル生息環境 (2007年11月25日).



写真2. 津山市のナガレタゴガエル生息環境 (2007年12月8日).



写真3. 苫田郡鏡野町(2ヶ所目)のナガレタゴガエル生息環境 (2007年12月24日).



写真4. 発見されたナガレタゴガエル (2007年11月25日).



写真5. 後肢のみずかきは著しく発達している.



写真6. 趾端は円盤状に膨らんでいる.



写真7. オスの胴体横の皮膚は著しく伸張している.



写真8. 抱接中のナガレタゴガエル.